

位置図



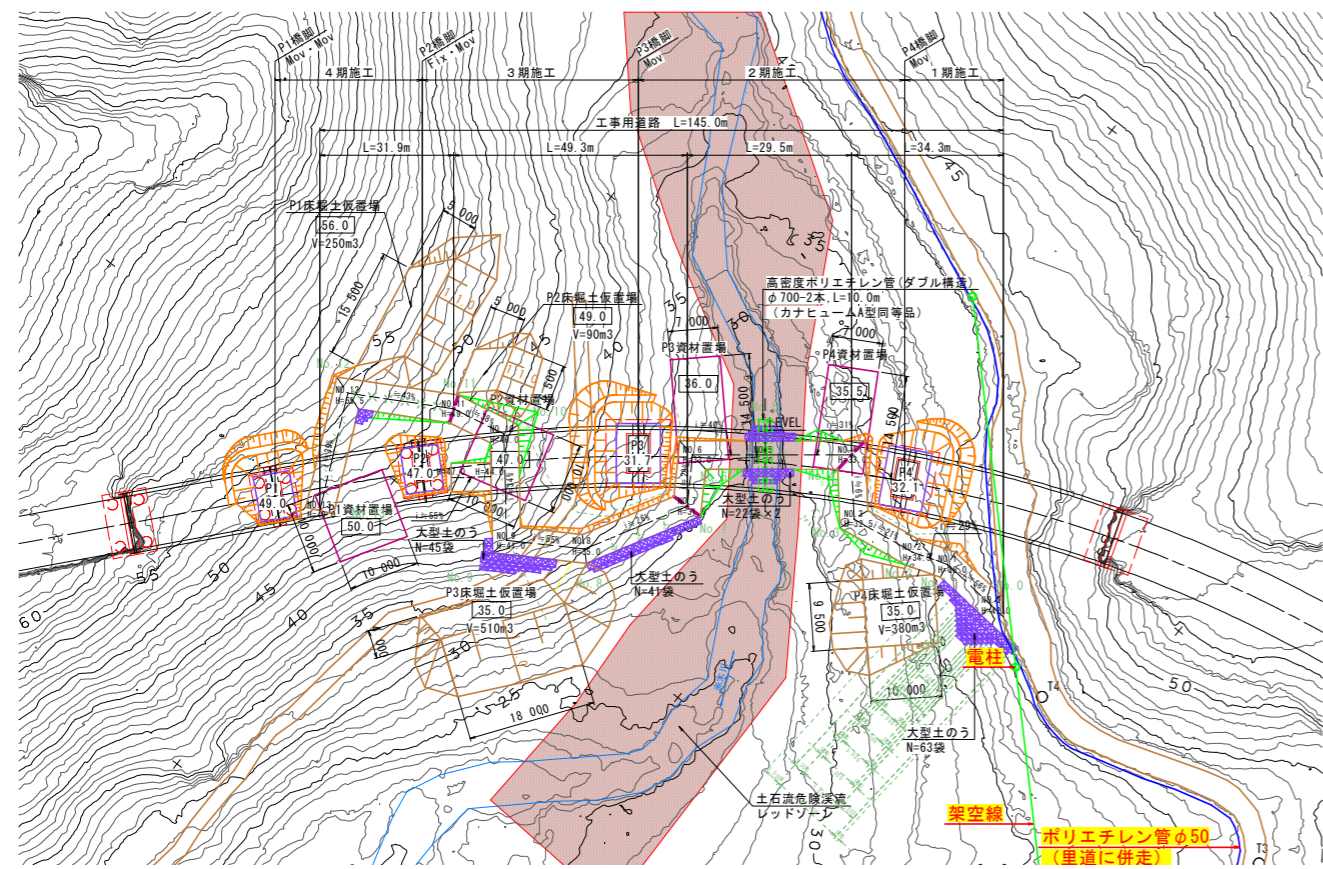
現地条件・課題(施工上の制約、設計のコントロールポイント等)

- 橋梁周辺は地形が急峻(旧ミカ畑)で、P4 橋脚以外は橋脚へ寄りつく既存の道路はない
 ※P4 橋脚付近までは蔵富TN付近から続く里道(W=2.5~3.0m 程度)あり
- 車両通行可能な工事用道路を設けるとコスト増となるため、土工用重機のみ自走進入する
- 桁下には小河川(土石流危険渓流)があるため、“盛土+大型土のう”にて渡河する
- 補強用資機材は橋面から吊り下ろし(国道を片交規制)とするが、昼 12 時間交通量≒11,500 台と非常に多いため、夜間作業とする ※コンクリート打設も同様

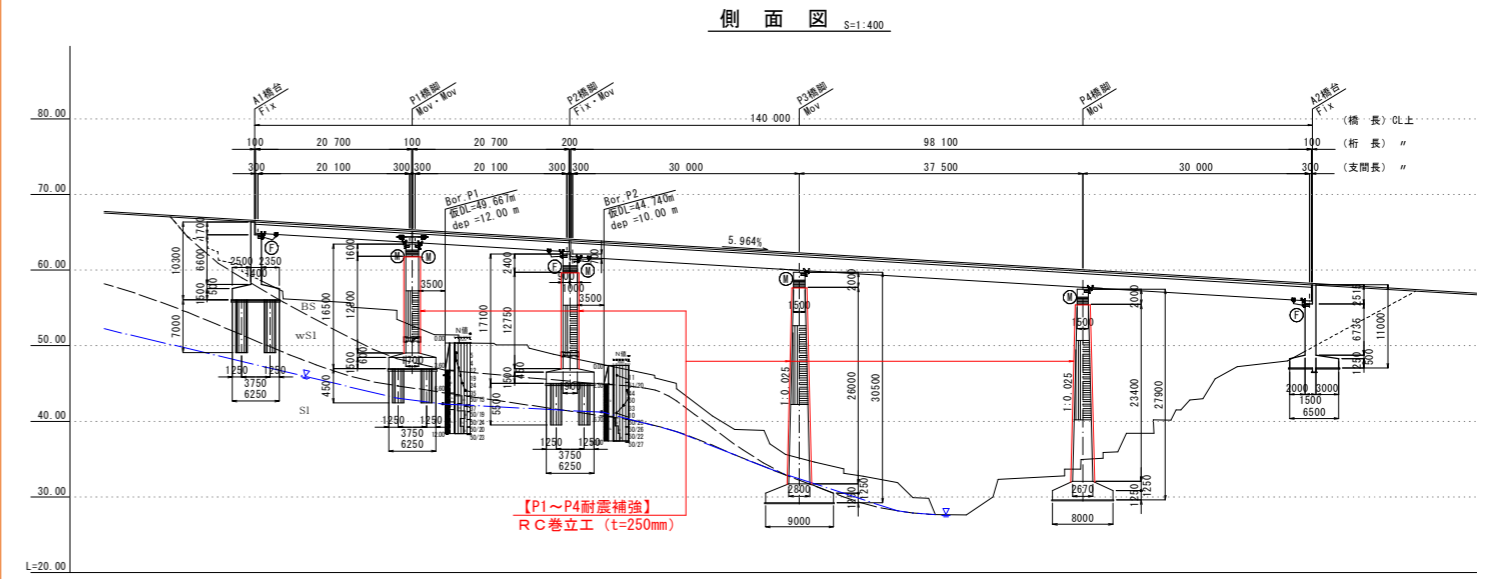
設計条件

- 橋長:140.0m, 上部工:2 径間単純鉄桁+3 径間連続鉄桁, 下部工:RC 矩形柱張出式橋脚
- 補強工法:RC 巻立て補強(t=25cm) ※過年度に炭素繊維巻立て補強済み
- 施工条件①:桁下に車両走行が可能な工事用道路は設けない
- 施工条件②:国道の規制及び資機材吊り下ろしやコンクリート打設は夜間作業とする

平面図



標準断面図



施工者からの意見および対応方針

○改善事項
特になし

○確認事項

施工条件①について

- 橋面からの施工は可能である。鉄筋の建て込みもウインチやチェーンブロック等で施工可能。隣接の橋でも橋面から施工を行った。
- ★対応方針⇒現計画の通りとする。

施工条件②について

- 下記理由により、資機材吊り下ろしやコンクリート打設(片交規制)は昼間作業が望ましい。
 - 1)生コンの夜間供給が困難な可能性がある。
 - 2)夜間施工は労災事故リスクが高い。
 - 3)過去の同路線の工事(交通規制)は昼間に行っている。
 - 4)予告看板や事前周知方法を工夫することで、昼間でも施工可能と思われる。
- ★対応方針⇒昼間施工を基本として検討する。
 ただし、交通規制は極力、土・日や交通量の少ない時間帯で行うことを基本とする。

その他

- 施工順序は、重機の往来により施工済み箇所を乱してしまうことがないよう、P1 橋脚⇒P4 橋脚方向とするのが良いのではないかと?
- ★対応方針⇒予算と合わせて工事形態を検討する。